新 刊

□芹沢俊介：**人里の自然** 196 pp. 1995. 保育社. ¥2,300.

自然環境保全にあたって，これ迄のように「貴重な」自然ばかりが貴重なのではなく，「あたり前」の自然も同じくらい貴重なのだという認識が，ようやく市民権を得はじめてきた．先に紹介した「ウエットランドの自然」もそうだが，本書ではもっと身近な道端や田畑や雑木林の自然の再認識をうながそうというものである．こういうところは既に人為の産物であり，「貴重な生物」がいないものだから，簡単に開発の手が加えられ，それがアメニティーの向上に貢献するものと歓迎されやすい，けれどもその陰で多くの「貴重でない生物」が減少し，生物相の単調化をもたらしていることを，タンポポやカエル，耕地整理や公園化を例として理解させようとしている．そういうことをより身近に感じるために，著者が永年行ってきたタンポポ調査の手法も紹介されている．調査や観察のために集団で野外に出ること自体に問題がある，という著者の考えに私も賛成である．何十人もが連なって，スピーカーで解説をガナるような「自然に親しむ会」は，そろそろ卒業にしてほしいものだ． （金井弘夫）

□横浜植物会編：**ヨコハマ植物散歩** 169 pp. 1995. かなしん出版. ¥1,800.

横浜市内の市民の森，公園をはじめ，身近な自然観察の適地を一覧するのに便利な本である。それぞれの地域の見取り図に並木の樹種，主要な樹木の名前と位置，付近で見られる主な植物名（作物も含む），施設や地物が書き込まれており，これに一頁程度の解説が伴う，解説はコース案内も兼ね，植物についてはむしろアッサリと流した感じで，初心者にはかえってとりつき易いと思う．本書を手にして歩けば，自然観察自習の手引きとして役立つように作られている．大人数が行列して解説者がマイクでがなるような「自然観察会」は，そろそろ卒業してもよかろうと考えているので，このような自習手引き書の出現は歓迎である．一人でも少人数のグループでも，あまり自信のないリーダーでも，とにかくこれを頼りに歩けば自然観察にとりつくことができ，その経験から次第に観察を深めるようになるだろう．学校や博物館の野外観察のために，こういう自然観察地図が作られているのを見たことがあるが，それが更に一般化されたもので，各地でこういうものが出現するとよい． （金井弘夫）

□井上　健：**月下美人はなぜ夜咲くのか** 岩波科学ライブラリー 30 109 pp. 1995. 岩波書店. ¥1,000.

送粉の為に行われる動物と植物との関係，特に植物が動物を誘う目的で行っている，匂い，色，花蜜など様々な誘因手段と，それに適応した動物の行動を解説している．題名のようにアマチュア向けに解説したものであるけれど，自身の研究や最近の新しいことも取り入れられていて，植物の生活に関心あるものには，興味を引く内容である． （山崎　敬）

□いがりまさし（写真・解説）高橋秀男（監修）：**日本のスミレ** 247 pp. 1996. 山と渓谷社. ¥2,000.

日本のすべての種類のスミレの写真集である．携帯可能な小冊子として作られている．5年の歳月をかけて，琉球から北海道までの自生地を訪れて撮影した，見事な写真が載せられている．今まで知られているすべての種類と変種が取り上げられ，それぞれの種類や変種は，全形写真，生育の状態，一枚の葉と表と裏の拡大，花の側面と正面からの写真，花柱の上面，側面，下面の拡大写真，必要なものは花喉の紫の条線の走りかたなど，詳細にわたる解剖写真が載せられていて，小冊子にもかかわらず，従来のスミレの写真集には見られなかった充実した内容のものである．長い間スミレの研究を続けておられる浜英助，井波一雄氏や，日本スミレ同好会の方々の知識の積み重ねの基礎があって出来たものと思われ，学術的にも価値がある．日本のスミレの分類体系はまだ十分に解明されていない点もあるので，将来の研究には欠か